



鈴木家住宅
●江戸初期の建物で、光圀の瑞竜山墓参時の昼食場となっていた額田村庄屋鈴木市十郎宅。



麟勝院(りんしょういん)
●1330年に創建された額田氏ゆかりの寺。境内には500年を過ぎる大杉があり市指定天然記念物となっている。



阿弥陀寺(あみだじ)
●1391年の創建で、親鸞聖人ゆかりの寺。本尊の阿弥陀如来は県指定文化財になっている。しだれ桜が有名。



鹿嶋八幡神社(額田神社)
●1063年の創立といわれ、武妻稲命、菅田別命の神が祭られている。3年に一度の額田まつり大祭は有名。



毘盧遮那寺(びるしゃなじ)
●1192年開祖の寺。県指定文化財である大般若経600巻で有名。



額田城跡(市指定文化財)
●額田城は建長年間、佐竹氏五代義重の次男義直が築城した城で、今でも内壕・外壕が残っている。
※額田城跡は私有地のため散策時にはマナーに注意して下さい。

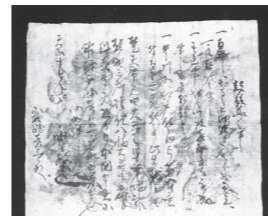
Vol.50

駅からのふるさと紀行 JR水郡線

額田駅

南酒出 | 河合

※イラストはイメージです。 ●次回は6月26日「常澄駅」を掲載予定です。



伊達政宗の密書
(菊池恒雄氏蔵)

●東日本大震災で被災したひたちなか市の民家の蔵から見つかった伊達政宗から額田城主の小野崎昭通宛てた密書。



「運ぶ」を支え、環境と未来をひらく

ISUZU

茨城いすゞ自動車株式会社

本社 / 〒310-0063 水戸市五軒町1-2-5 ☎029-225-1215(代)
http://www.ibaraki-isuzu.co.jp



●単式ホーム1面1線の地上駅でホーム中程に小さな待合室がある。



●ホームより南酒出駅方面を望む。



●現在、水郡線で運用されているキハE130系。

伊達政宗からの「密書」で脚光
歴史ロマンあふれる城下町・額田

額田駅は明治30年、太田鉄道の開業に伴って設置された歴史のある駅。太田鉄道は4年後に水戸鉄道となり、昭和2年に国有化されて水郡線となった。現在は1面1線の無人駅だが、かつては久慈川の川砂利を運ぶインクラインがあり、にぎわいを見た。

駅名にもなった額田地区は歴史ロマンがあふれる地。なかでも額田城跡は伊達政宗から城主に送られた密書が見つかり注目を集めている。この密書は佐竹氏攻略を目指していた政宗が、小野崎昭通に主君佐竹氏を裏切るように促す内容で、政宗の常陸攻め構想を裏付けている。天正19年(1591年)、昭通が政宗と通じていたことを知った佐竹義宣に攻められ額田城は落城。「政宗が豊臣秀吉に服属せず、常陸攻めを行っていたら、今の茨城はどうなっていたことだろう」と思いを巡らせるのも楽しい。

近年、額田城跡保存会の努力により、城跡は整備が進んでいる。

● 散策コース ●

額田駅から県道62号線を北東に向かい、国道349号バイパスを超えてしばらく行くと右側に「鈴木家住宅」がある。鈴木家は徳川光圀の養女・万姫を嫁に迎えたほどの名家で、光圀が宿泊した書院のほか、光圀が植えたモチノキがある。次は麟勝院、阿弥陀寺へ。麟勝院は額田城主・額田蔵人大夫義直が、父・佐竹義重の冥福を祈るために建てたお寺で、境内には額田義直の供養塔がある。阿弥陀寺は親鸞聖人ゆかりの寺。額田城跡の一角にあり、土塁や堀跡を見ることができる。鎌倉時代に築城された額田城は、本

丸と二の丸だけでも77,000㎡の面積を誇り、県内でも指折りの規模。阿弥陀寺からは遊歩道があり、往時の姿を垣間見ることが出来る。額田城跡の次は、国道349号を常陸太田方面に向かい毘盧遮那寺へ。京都の大覚寺の末寺で、境内には観音堂もある。隣接する参道を北に向かえば源頼義が奥州征伐から帰る途中に創立したと言われる鹿嶋八幡神社がある。お土産は、つぼ焼きおおがねのニッキ香る「つぼ焼」や「焼じーなつ」がオススメ。



つぼ型のお菓子「つぼ焼」(3種類)